

「調査法ハンドブック」 正誤表および補足

章	ページ	該当箇所	誤	正 または 加除調整・補足	注釈
目次	xvi ページ		2.5 いろいろな統計量の誤差の考え方66	2.5 いろいろな統計量の誤差の考え方 67	引用ページのミス
	xviii ページ		5.1.4 情報伝達の媒体	5.1.4 情報伝達の 手段	
	xx ページ		9.5.7 調査員変動を減らす戦略の要約 329	9.5.7 調査員変動を減らす戦略の要約 327	引用ページのミス
	xx ページ		9.6 標準面接法に関する論争329	9.6 標準面接法に関する論争 327	引用ページのミス
まえがき	ix ページ	下から7行目	...独自の方法で原則を実践を必要とするものであった.	...独自の方法で原則を 実践する ものであった.	
1章	3 ページ	上から1, 3, 6行目	統計量 (statistics) 記述的統計量 (descriptive statistics) 分析的統計量 (analytic statistics)	統計量 (statistic) 記述的統計量 (descriptive statistic) 分析的統計量 (analytic statistic)	「統計量」は本来「 statistic 」だが、原著では複数あるということで statistics となっている。キーワードとしては「s」を削除するほうがよいので左のようにした。 41 ページのキーワード一覧は statistic とする。
	7 ページ	1.2.3 項, 上から12行目	..., から“N個”につき,, から“ N 個”につき, ...	他に合わせて N をイタリック..
	7 ページ	1.2.3 項, 上から16~17行目	エリア確率標本的標本抽出 (確率的エリア・サンプリング, area probability sample)	エリア確率的標本抽出 (確率的エリア・サンプリング, area probability sampling)	ここは確率抽出のこと, よって「 sampling 」とする。
	12 ページ	上から7行目	その共同住宅の従業員は, ...	その共同住宅の従業員 か , ...	
	19 ページ	上から13行目	オーディオ・コンピュータを用いた個人面接方式 (ACASI)	オーディオ・コンピュータによる 自答式 (ACASI)	キーワードおよび5章に合わせる。
	21 ページ	上から3行目	ランダム・ディジット・ダイ ヤ リング	ランダム・ディジット・ダイ ア リング	何か所かの同じ用語の訳を「ランダム・ ディ ジット・ダイ ア リング」で

				そろえる.
21 ページ	上から 15 行目	コンピュータ支援の面接システム (CATI)	コンピュータ支援の電話面接システム (CATI)	ここでは, computer-assisted interviewing system なので「コンピュータ支援の電話面接システム」としてそろえた.
23 ページ	下から 14 行目	警察犯罪報告	警察が保有する犯罪報告	
36 ページ	上から 10 行目	米国情勢調査局 (Bureau of the Census)	米国情勢調査局 (Census Bureau)	原著も混乱している. 機関名称の変更があったことも事実だが, その時期と引用統計情報との関連からこうしたことになったと思われる. 引用情報の時点にもよるが, ここはその時点に無関係だろうから変更がよいとした. 1章の訳注「*6」も参照.
41 ページ	キーワード	交替パネル設計 (輪番制パネル設計)	交替パネル調査設計	
41 ページ	キーワード	統計量 (statistic(s))	統計量 (statistic)	「統計量」が複数あるということで, 原著は文章内では「statistics」としている.
41 ページ	キーワード	反復的横断型調査設計	反復横断型調査	
41 ページ	キーワード	RDD 方式 (random digit dialing)	ランダム・デジタル・ダイアリング, RDD 方式 (random digit dialing)	キーワード一覧に「ランダム・デジタル・ダイアリング」を追加する.
2 章	47 ページ	2.2.3 項, 上から 9~10 行目	たとえば「消費者調査」で, 12 日のある週で, 非管理職の従業員が何名... たとえば「消費者調査」で, 調査月の 12 日を含む週で, 非管理職の従業員が何名...	「調査月の 12 日を含む週」の意味について. これは, 調査によって少しずつその意味が異なる. たとえば, 「最新雇用統計プログラム」(CES) の「該当期間」はそれぞれ「毎月 12 日を含む給与期間」「毎月 12 日を含む暦週」と定義されている. やや情報が古いが下記の URL が参考になる. http://www.bls.gov/opub/hom/homch1_b.htm http://www.dlt.ri.gov/lmi/faq/programs.htm
	52 ページ	図 2.5 内	加工処理	処理誤差 これで統一する.

	55 ページ	下から 4 行目	(2.3) 式の記法 $E_{ii} [(Y_{ii} - \bar{Y})(\mu_{ii} - \mu)] / \left[\sqrt{E_{ii} (Y_{ii} - \bar{Y})^2 E_{ii} (\mu_{ii} - \mu)^2} \right]$	次のように表す. $E_{ii} [(Y_{ii} - \bar{Y})(\mu_{ii} - \bar{\mu})] / \left[\sqrt{E_{ii} (Y_{ii} - \bar{Y})^2 E_{ii} (\mu_{ii} - \bar{\mu})^2} \right]$	このページの下から 5 行目に付けた訳注「*8」(445 ページ)も参照のこと. この訳注にあるように, (2.3) 式は実質的には 8 章の (8.2) 式 (287 ページ) に同じである. これに合わせて左のように「 μ 」を「 $\bar{\mu}$ 」とし, かつ添え字を調整する.
	55 ページ	下から 1 行目	y と μ とは共変量の関係にあり, ...	Y_i と μ_i とは共変量の関係にあり, ...	式の変更に合わせた. また, 8 章の妥当性の定義式に合わせた (287 ページ). 訳注「*8」(445 ページ)も参照のこと.
	59 ページ	上から 11 行目	2.3.4 カバレッジ誤差: 対象 母集団と標本抽出枠との...	2.3.4 カバレッジ誤差: 目標 母集団と標本抽出枠との...	訳語の統一のため
	62 ページ	上から 7~8 行目	標本 抽出分散	抽出分散	「標本」を削除する. (*) 後ろの 4 章の説明も参照
	71 ページ	キーワード	統計量 (statistic(s))	統計量 (statistic)	(s) を削除. 統計量の意味では「statistic」となる. 原文は統計量が複数あるとの意味で statistics とある.
	71 ページ	キーワード	要素, 標本要素, 個体標本 (element sample)	要素標本 (element sample)	本文 (63 ページ) に合わせた.
	71 ページ	キーワード	集落 化 標本 (cluster sample)	集落標本 (cluster sample)	本文 (63 ページ) に合わせた.
3 章	76 ページ	上から 1 行目	単位 (個体)	単位	(個体) を削除.
	79 ページ	下から 5~4 行目	...議論の尽き な さい分野である.	...議論の尽き な い分野である.	
	82 ページ	上から 3 行目	ランダム・ディジット・ダイ ヤ リング	ランダム・ディジット・ダイ ア リング	「ランダム・ディジット・ダイ ア リング」でそろえる.
	86 ページ	上から 10, 11 行目, 下から 2 行目	加重	重み	
	86 ページ	下から 1 行目	加重補正法	重みづけ あるいは	

				重みづけ法	
	95 ページ	3.6,2 項, 上から 15 行目	...という加重を...	...という重みを...	
	97 ページ	下から 1 行目	...を加重として...	...を重みとして...	
	101 ページ	下から 2 行目	...最新の国勢調査...	...最新のセンサス...	
	101 ページ	キーワード	異質の単位 (foreign element)	異質の単位, 異質の要素 (foreign unit, foreign element)	本文, 81 ページ参照.
	101 ページ	キーワード	多重抽出枠サンプリング (multiple frame sampling) 多重標本抽出枠 (multiple frame sampling)	多重サンプリング (multiplicity sampling, 多重標本抽出) 多重標本抽出枠 (multiple frame sampling)	キーワード一覧の記述で「multiple frame sampling」が重複し混乱 本文 (95 ページ, 96 ページ) に合わせてここを変更.
	101 ページ	キーワード	通常の居住地 (usual residence 半開区間 (half-open interval)	通常の居住地 (usual residence) 半開区間 (half-open interval)	いずれも右括弧をつける.
	101 ページ	キーワード	ランダム・デジット・ダイヤリング	ランダム・ディジット・ダイアリング	「ランダム・ディジット・ダイアリング」でそろえる.
4 章	103 ページ	下から 17~16 行目	列記のあとの空白処理	列記のあと, 1 行空白入れる	
	104 ページ	上から 4~5 行目	標本抽出による偏り (sample bias)	標本抽出による偏り (sampling bias)	スペルのミス
	104 ページ ~145 ページ まで		以下のページにある「標本抽出分散」をすべて「抽出分散」に変更する. 104 ページ, 上から 12 行目 107 ページ, 上から 20 行目, 下から 13~14 行目 108 ページ, 下から 16 行目 109 ページ, 上から 5, 11, 13, 15 行目, 下から 14, 10, 9, 7 行目 (8 箇所) 110 ページ, 上から 6, 9 行目 114 ページ, 上から 15 行目 115 ページ, 上から 2, 6, 11, 12, 16 行目, 下から 7 行目 (6 箇所) 116 ページ, 上から 9, 11, 12 行目, 下から 2 行目 (4 箇所) 117 ページ, 下から 4 行目 118 ページ, 下から 2, 7 行目 (2 箇所) 119 ページ, 上から 2 行目 119 ページ, 「コラム 6」内 (2 箇所) 上から 6, 9 行目		ここで, 「標本」は削除する. これは, 多くの本で「variance of the sampling distribution」つまり「標本分布の分散」(例: “OECD Glossary of Statistical Terms 2008”) あるいは「推定量の分散」(variance of estimator) とある. 実はこの原語「sampling variance」にあてる訳語は, なぜかほとんどみられない(「標本分布の分散」という言い方が多い). そこでこの訳語の候補をいくつか検討した. たとえば, 「標本抽出分散」「サンプリング分散」「抽出の変動」などが挙げられた. 2 章で

		120 ページ, 上から 10, 13, 14, 15 行目 (5 箇所) 123 ページ, 上から 5, 7, 8, 16, 22 行目 (5 箇所) 125 ページ, 下から 2 行目 126 ページ, 下から 10, 16, 18, 19 行目 (4 箇所) 127 ページ, 4.5.2 項, 上から 1, 2, 8 行目 (3 箇所) 128 ページ, 上から 10 行目, 下から 9 行目 (2 箇所) 131 ページ, 上から 12, 14 行目 142 ページ, 上から 2, 4, 7, 10, 11 行目, 下から 7 行目 (6 箇所) 145 ページ, 表の下, 3 行目		“標本抽出に伴う変動”と補足したような含みがあるのだが, ここは「抽出分散」をあてることとした. 用語をこれにそろえる段階で若干の不備があり, とくにこの 4 章では, 「標本抽出分散」が「抽出分散」と変更されずに残ったという経緯がある(「標本抽出分散」としてもそう大きな齟齬はないが, 全体にそろえるという意味で「抽出分散」を採用した). たとえば, 本書の例にあるように, 統計量として標本平均を考えたとき, その分布(標本分布)の分散が“標本平均の抽出分散”となる. この例をこの資料の終わりに「補足説明」として示した. 他の統計量とその標本分布についても同じように考える.
104 ページ	4.2 節, 上から 2 行目	...調査 (mall intercept survey) では,調査では, ...	(mall intercept survey) は削除, 移動する
104 ページ	4.2 節, 上から 3 行目	たとえば, モール・インターセプト調査では, ...	たとえば, モール・インターセプト調査 (mall intercept survey) では, ...	上に合わせて訂正
106 ページ	図 4.3 内	$S = 1, 2, \dots, K$	$s = 1, 2, \dots, S$	2 章の訳注「*13」(446 ページ) も参照.
108 ページ	下から 17 行目	単純無作為抽出 (SRS : simple random sample)	単純無作為抽出 (SRS : simple random sampling)	スペルのミス
112 ページ	4.4 節, 上から 1 行目	集落標本	“集落標本 (cluster sample) ”	本文 (113 ページ) をキーワード扱いとする. ボールドとし英語表記を加え引用符 (“ ”) でくくる.
124 ページ	上から 11 行目	での調査」 ^{*34} から得た...	での調査」 ^{*4} から得た...	注釈番号のミス (*34→*4 に変更)
128 ページ	下から 10 行目	...単なる無作為選出によって...	...単なる無作為抽出によって...	

	137 ページ	下から 16 行目	…隣接した住居単位の集団，(約 4 戸の住居単位) である.	…隣接した住居単位の集団 (約 4 戸の住居単位) である.	カンマを削除.
	139 ページ	上から 12 行目	ランダム・デジット・ダイヤリング	ランダム・ ディ ジット・ ダイ アリング	「ランダム・ディジット・ダイアリング」でそろえる.
	145 ページ	キーワード	roh (rate of homogeneity) : ρ	roh (ρ) : 等質性の比率 (rate of homogeneity)	
	145 ページ	キーワード	2 段標本設計	2 段標本抽出設計	本文 (131 ページ) に合わせる.
	145 ページ	キーワード	標本要素の分散 (sample element variance)	標本分散 (sample element variance)	誤訳ではないが，本文 (106 ページ) に合わせて変更とした.
5 章	147 ページ	図 5.1 内	標本設計，標本の選出	標本設計，標本の抽出	
	148 ページ	下から 4 行目	オーディオ・コンピュータによる自記式 (audio-CASI, CASI)	オーディオ・コンピュータによる自答式 (audio-CASI, CASI)	
	148 ページ	下から 1 行目	コンピュータ支援の電話聴取方式 (CATI)	コンピュータ支援の電話面接方式 (CATI)	全体に合わせて「コンピュータ支援の電話面接方式」とする.
	154 ページ	5.1.4 項の見出し	情報伝達の媒体	情報伝達の手段	目次 (xviii ページ) も変更となる.
	156 ページ	上から 15 行目	コンピュータ支援の自記式 (CASI 手法)	コンピュータ支援の自答式 (CASI 手法)	
	156 ページ	下から 10 行目	相互作用 (interaction)	相互作用	(interaction) を削除.
	159 ページ	上から 2 行目	…配置するとすれば，…	…配置するとすれば*5，…	訳注番号「*5」の脱落.
	161 ページ	上から 1, 2 行目	…にある他の違いによって… …間で生じる他の違いを…	「上に述べたように，調査方式の比較は，調査の各段階の間にある他の違いによって複雑になる。」は削除.	
	165 ページ	下から 5 行目	デ・リユー	デリユー	「・」削除し，他に合わせる.
	166 ページ	上から 19 行目	個人の (勧誘活動) への努力を…	個人の勧誘活動への努力を…	
	167 ページ	上から 10～11 行目	回答率 (回収率)	回答率	(回収率) は削除.
	171 ページ	「コラム 9」内，上から 4 行目	オーディオ・コンピュータによる自記式 (ACASI)	オーディオ・コンピュータによる自答式 (ACASI)	
	174 ページ	上から 4 行目	オーディオ・コンピュータを用いた自記	オーディオ・コンピュータを用いた自答	

		式 (audio-CASI)	式 (audio-CASI)		
177 ページ	上から 4 行目	コンピュータ支援の自記式調査	コンピュータ支援自答式調査		
177 ページ	5.3.7 項, 上から 4 行目	...高い回収率,高い回答率, ...		
178 ページ	下から 11 行目	コンピュータ支援の電話聴取方式 (CATI)	コンピュータ支援の電話面接方式 (CATI)		
183 ページ	上から 5 行目	コンピュータ支援の電話聴取方式 (CATI)	コンピュータ支援の電話面接方式 (CATI)		
183 ページ	下から 10 行目	回答率 (回収率)	回答率	(回収率) は削除.	
184 ページ	キーワード	オーディオ・コンピュータによる自記式 (ACASI)	オーディオ・コンピュータによる自答式 (ACASI)		
184 ページ	キーワード	オーディオ・コンピュータによる自記式電話調査 (T-ACASI)	オーディオ・コンピュータによる自答式電話調査 (T-ACASI)		
184 ページ	キーワード	コンピュータ支援の自答式調査 (video-ACASI)	ビデオ自答式方式 (video-ACASI)	本文 (150 ページ) に合わせた.	
184 ページ	キーワード	ラップトップにより質問を表示し回答を取り込むコンピュータ支援の自答式調査 (text-ACASI)	ラップトップ・コンピュータを使用して質問を提示し回答を受け取る方式 (text-ACASI)	本文 (150 ページ) に合わせた.	
6 章	187 ページ	上から 9 行目	...ずいることがよくある.	...ずにいることがよくある.	
	189 ページ	上から 9 行目, 下から 10 行目	ゲーテッド・コミュニティ	ゲーティッド・コミュニティ	
	189 ページ	下から 7 行目	複合方式	混合方式	
	193 ページ	上から 8 行目	無回答	調査不能	ここの nonresponses は「調査不能」の意味.
	198 ページ	上から 2 行目	下図	左の図	
	201 ページ	上から 3 行目	米国世論調査協会	米国世論調査学会	他にそろえる.
	201 ページ	下から 4 行目	$(I+R+NC+O) / (I+O+NC+O)$ 標本内に選出された不適格者)	$(I+R+NC+O) / (I+R+NC+O)$ 標本内に選ばれた不適格者)	数式の訂正と語句の調整 (他にそろえた).
	203 ページ	下から 1 行目	では回答率を, 世帯の...	この調査では回答率を, 世帯の...	
	204 ページ	上から 6 行目	...列挙されたすべての比である.	...列挙されたすべての者の比である.	
208 ページ	6.7 節, 上か	決断	判断	図 6.13 に合わせる.	

	ら 8 行目	(2 箇所ある)		
210 ページ	下から 5 行目	...評価された、ときにはリサーチャーは、...	...評価されたときには、リサーチャーは、...	読点の位置の変更.
219 ページ	キーワード	行き過ぎた (過剰な) 調査 (oversurveying)	過剰な調査, いきすぎた調査 (oversurveying)	本文 (194 ページ) に合わせて変更.
219 ページ	キーワード	社会的隔離 (孤立) (social isolation)	社会的隔離 (social isolation, 社会的孤立)	本文 (194 ページ) に合わせて変更.
219 ページ	キーワード	調整すること (tailoring)	適応させる (こと) (tailoring)	本文 (209 ページ) に合わせる.
7 章	229 ページ	上から 4 行目	..., 最小限 (のこと) だけを行う.	..., “最小限のこと”だけを行う. (のこと) の () は削除. 引用符 (“ ”) を付ける.
	233 ページ	下から 7 行目	5) 曖昧な回答数の指定	5) 曖昧な修飾語
	251 ページ	図 7.3 内	図中のカギ型矢印の位置	「20いいえ」の左横に付く
	256-257 ページ	上から 1 行目	“制限を設けること (... , 制限設定) という...	“制限を設けること (... , 制限設定) ”という...
	261 ページ	4 行目	...あるいはとは, 不注意から...	...とは, 不注意から...
	269 ページ	キーワード 一覧内	曖昧な概念	不明瞭な概念
	269 ページ	キーワード 一覧内	曖昧な数 (回答申告) の指定	曖昧な修飾語 (vague quantifier)
		キーワード 一覧内	書き込む, 誘導する	誘導する
		キーワード 一覧内	肯定的なバイアス (ポジティビティ・バイアス, 寛容効果) (positivity bias)	ポジティビティ・バイアス (positivity bias ; 肯定的な偏り)
		キーワード 一覧内	再構成, 再構築	再構成
		キーワード	順位付け, 順位化	順位のある

		一覧内			
		キーワード 一覧内	推定, 推計, 推量	推論	本文 (226 ページ) に合わせる.
		キーワード 一覧内	最小限の要求を満たす	最小限界	本文 (229 ページ) に合わせる.
		キーワード 一覧内	制限設定, 制限を設けること	制限を設けること	本文 (241 ページ) に合わせる.
		キーワード 一覧内	テレスコーピング (短縮化効果, 近接化効果)	テレスコーピング (短縮化)	本文 (241 ページ) に合わせる.
		キーワード 一覧内	想起にもとづく計数	想起-計数	本文 (242 ページ) に合わせる.
		キーワード 一覧内	想起失敗 (検索の失敗)	想起失敗	本文 (238 ページ) に合わせる.
		キーワード 一覧内	包括的な記憶, 一般的な記憶	一般的な記憶	本文 (238 ページ) に合わせる.
		キーワード 一覧内	想起 (検索)	想起	本文 (224 ページ) に合わせる.
8 章	272 ページ	下から 3, 2 行目	グラッセー	グレイサー	人名ミス
	276 ページ	下から 4 行目	...一覧を書きかえたしたものである.	...一覧を書きかえたものである.	
	278 ページ	8.5 節, 上か ら 1 行目	“予備調査 (pretest) ”	“予備調査 (pretest) ”	キーワードとして「予備調査」をボ ールド指定.
	282 ページ	8.7 節, 上か ら 4 行目	内容面の基準	内容面での基準	
	291 ページ	8.9.2 項, 上か ら 1 行目	回答の偏り (response bias)	“回答の偏り (response bias) ”	キーワードとして「回答の偏り」を ボールド指定, かつ引用符 (“ ”) をつける.
	291 ページ	下から 6 行目	サドマン	サッドマン	人名を他に合わせる.
	292 ページ	上から 4 行目	サドマン	サッドマン	人名を他に合わせる.
	306 ページ	9.2.3 項, 上か ら 8 行目	サドマン	サッドマン	人名を他に合わせる.
9 章	309 ページ	13 行目	..., 各調査員は通常は...	..., 各調査員には通常は...	
	324 ページ	上から 10 行	固定型選択肢 (tixed-choice question)	固定型選択肢 (fixed-choice question)	スペルミス

		目			
	325 ページ	下から 4 行目	...証拠はかなり信頼できる (Mangione, Fowler, and Louis, 1992).	...証拠はかなり信頼できる (マンジョーネ, ファウラー, ルイス: Mangione, Fowler, and Louis, 1992).	人名カナの脱落, これを入れる.
	326 ページ	下から 14 行目	談話形式の回答を, ...	語りの形式の回答を, ...	他に合わせる.
	337 ページ	上から 1 行目	調査員効果	調査員の影響	
	337 ページ	上から 4 行目	...動機づけるのに課題が効果的であることが,動機づけるのに調査員が効果的であることが, ...	
	339 ページ	キーワード	相互貫入的な割り当て (interpenetrated sample)	相互貫入的な標本割り当て (interpenetrated sample)	本文 (308 ページ) に合わせて「標本」を入れる.
10 章	346 ページ	10.2.2 項の上から 6 行目	本質 (特徴)	本質	(特徴) は削除.
	352 ページ	下から 14~15 行目, 下から 11~12 行目, 下から 10 行目 (4 箇所)	国際標準産業分類 (SIC)	標準産業分類 (SIC)	SIC と ISIC とは異なる. よって左のように変更する, とした.
	353 ページ	下から 4 行目, 1 行目	国際標準産業分類 (SIC)	標準産業分類 (SIC)	上に同じ理由.
	355 ページ	下から 5 行目	...分散成分の大きさは...	...変動成分の大きさは...	ここで「variance component」の variance は「変動」とした.
	359 ページ	上から 11~12 行目	...についての縦断的データ (継続的データ, longitudinal data)についての縦断的データ (longitudinal data) ...	「継続的データ」を削除.
	360 ページ	下から 2 行目	...からを導くことができる.	...から導くことができる.	
	360 ページ	下から 3 行目	“暗黙のエディット (implied edit)	“暗黙のエディット (implied edit) ”	右側引用符 (”) を付ける.
	360 ページ		明示的エディット (explicit edits)	“明示的エディット (explicit edits) ”	キーワードとして引用符 (“ ”) でくくる.
	365 ページ	表 10.6 内	表中の「7.95*」 表下の「*訳注」	「*」を削除, 「7.95」 表下の「*訳注」は不要, 削除	「*」を削除, また表の下の「訳注」は不要, 削除. 原著では「7.98」とあったが, 検算の結果これは「7.95」と

				なる，ということ．	
366 ページ	上から 11 行目，14 行目	基本の重み (basic weight) 基本重み	基本の重み	383, 384 ページ 「基本の重み」とする．	
367 ページ	表 10.7 内	表中の「7.63*」	「7.63」	「*」を削除 原著では「7.64」とあったが検算の結果「7.63」が正しい．これをチェックした際の確認記号が残ったもの．	
367 ページ	上から 5～6 行目	...最終的な加重 (重み) は，最終的な重みは， ...	「加重」は削除．	
367 ページ	下から 9 行目	...同様に，個別に得た構成要素の重みを同様に，個々の成分の重みを...		
367 ページ	下から 1 行目	表 10.4	表 10.7		
369 ページ	下から 5 行目	... (これは 2 章から再掲した図) (これは 2 章から引用した図) ...		
375 ページ	下から 14 行目	...抽出することに類似したとして，抽出することに類似したこととして， ...		
376 ページ	上から 13 行目	...どのように選ぶ，その選出方法にある．	...どのように選ぶのか，その抽出方法にある．		
383 ページ	本文の下から 6 行目	...集落化，違いのある重みづけを...	...集落化，それぞれ異なった重みづけを ...		
383 ページ	下から 4 行目	「抽出重み」	「抽出の重み」	本文 (365 ページ) とキーワードに合わせる．	
383 ページ	下から 3 行目	基本重み	基本の重み	「基本重み」「基本の重み」の混在をこれでそろえた．	
384 ページ	下から 5 行目	基本重み	基本の重み	「基本重み」「基本の重み」の混在をこれでそろえた．	
11 章	386 ページ	上から 11.1 節，3 行目	状況 (背景)	状況 (背景) を削除．	
	387 ページ	上から 12 行目	慎む (控える)	(控える) を削除．	
	387 ページ	下から 2 行目	自己参加的な回答者 (ボランティア) 回答者...	自発的に参加した回答者 (ボランティア回答者) ...	() の位置と語句を調整．
	390 ページ	上から 10 行目	...ほぼ間違いなくその質問が表された方法の...	...ほぼ間違いなくその質問文の言い表し方の...	

	400 ページ	下から 17～18 行目	...慎重に扱うべき (センシティブデータ, sensitive data) を...	...慎重に扱うべきデータ (センシティブデータ, sensitive data) を...	
	403 ページ	図 11.1 内, 上から 10 行目あたり	..., 家族, 雇用者, その他...	..., 家族, 雇用主, その他...	
	409 ページ	下から 3 行目からこのページの終わりまで	この分野における一般人の選好と寛容性に関する, 多くのより優れた研究は大いに価値があるだろう. つまり, そのような情報が欠落していると, このことについての回答者自身の選好に対して, 回答者が好ましくないと思うであろうことについては, 施設内倫理委員会 (IRB) の委員自身の主観的判断で代用することが必要になる.	この分野における一般人の好みと寛容性に関する, さらなる優れた研究は大いに価値があるだろう. このような情報, つまり優れた研究が欠落していることから, 施設内倫理委員会 (IRB) の委員たちは, 慎重に扱うべき主題にかかわる回答者自身の好みと照らし合わせて, おそらく回答者が不快と思うことについては, 委員自身の主観的判断をあてはめる必要がある.	訳語, 一部調整.
	413 ページ	上から 15 行目	これは分散している調査設計にとってもっとも一般的なツールであるが, ...	これは分散している面接を行う調査設計にとってもっとも一般的なツールであるが, ...	訳語調整と読点の追加.
12 章	426 ページ	上から 10～11 行目	...にとって多少の重要な脅威に対処すればよい, というのではないのである.	...にとって重要な脅威の 1 つや 2 つを適当に扱えばすむことではないからである.	訳語を若干調整した.
	430 ページ	上から 3 行目	式番号の脱落	(12.1)	式番号を付ける.
	430 ページ	Q10 内	標本抽出分散	抽出分散	前に同じ.
	435 ページ	上から 11-12 行目	その問題が特定されれば, リサーチャーは, 傾向の測定あるいはその過去の心理測定学の成果といった, この質問文を用いる理由を判断し, 重大な欠陥のある質問文を使うことを正当化しない.	その問題が特定されれば, リサーチャーは, 傾向の測定あるいはその過去の心理測定的な成果といった項目を用いる理由が, 重大な欠陥のある質問文を使うことを正当化しないと判断するかもしれない.	訳語, 一部調整.
	437 ページ	下から 1 行目	式番号の脱落	(12.2)	訳注での引用「*5」が必要 (458 ページ).
	438 ページ	下から 15 行目	式番号の脱落	(12.3)	式番号を付ける.

	439 ページ	上から 16 行 目	結局は、加重の和に...	結局は、 重み の和に...	
訳注	446 ページ	第 3 章, 「*5」	...をさす	...をさす.	句点「.」を入れる.
	449 ページ	第 6 章, 「*4」	ゲー テ ッド・コミュニティ	ゲー テイ ッド・コミュニティ	3 章にそろえる.
	458 ページ	第 12 章, 「*3」	...これを $\bar{p} = 0.5$ としたときに, $\sqrt{\frac{\bar{p}(1-\bar{p})}{n}} = \sqrt{\frac{0.5(1-0.5)}{n}} \doteq 0.0316$ となると いうこと.	...これを $n = 1000, \bar{p} = 0.5$ としたとき に, $\sqrt{\frac{\bar{p}(1-\bar{p})}{n}} = \sqrt{\frac{0.5(1-0.5)}{1000}} \doteq 0.0316$ と なるということ.	$n = 1000$ を追加ほか.
追加 参考 文献	482 ページ	下から 12 行 目		西平 重喜 (1985), 統計調査法 補訂版, 新数学シリーズ (8), 培風館.	左の文献を追加する.

関連 文献	総調査誤差 (TSE: total survey error) 関連の文献	<p>総調査誤差 (TSE) については、以下の各論文にみられるように議論が盛んな話題である。また国内では、まだ十分に理解されていない部分もある。理解を助けとなるよう、文献をいくつか挙げておく。</p> <p><i>Public Opinion Quarterly</i>, Vol. 74, No. 5 は、“Total Survey Error”の特集号であった。(ii), (iii) は TSE のパラダイムを知るために適した論文である。とくに (iii) には調査誤差の議論を巡る歴史的な経緯なども書かれている。</p> <p>(i) Smith, T.W. (2011): Refining the Total Survey Error Perspective, <i>International Journal of Public Opinion Research</i>, Vol. 23 No. 4, 464-484.</p> <p>(ii) Biemer, P.P. (2010): Total Survey Error: Design - Implementation, and Evaluation, <i>Public Opinion Quarterly</i>, Vol. 74, No. 5, pp. 817-848.</p> <p>(iii) Groves, R.M., and Lyberg, L. (2010): Total Survey Error - Past, Present, and Future, <i>Public Opinion Quarterly</i>, Vol. 74, No. 5, 2010, pp. 849-879.</p>
	抽出分散 (sampling variance) に関連の文献	<p>(i) Lavrakas, P.J.(ed.): <i>Encyclopedia of Survey Research Methods</i> (2 Volume Set), Sage Publications. (2008).</p> <p>(*) 以下の文献も参考になる。なお、一部は本訳書に追加文献として挙げたものに重複するが、あらためて示した。</p> <p>(ii) OECD (2008): <i>OECD Glossary of Statistical Terms 2008</i>, Organization for Economic.</p> <p>(iii) Groves, R.M. (1989): <i>Survey Errors and Survey Costs</i>, John Wiley and Sons.</p> <p>(iv) Sudman, S. (1976): <i>Applied Sampling</i>, Academic Press.</p> <p>(v) Heeringa, S.G. and others (2010): <i>Applied Survey Data Analysis</i>, CRC Press.</p>

補足説明：抽出分散について

ここで抽出分散 (sampling variance) をもう少し詳しく確認しておこう。なお本書では「平均値 (標本平均) の場合を例」として抽出分散を説明している。

記号の準備：

$$\text{母集団要素のある特性のとりうる値： } Y_i (i=1,2,\dots,N) \quad (\text{ここで } N \text{ は母集団の大きさ}) \quad (1)$$

$$\text{母集団平均値： } \bar{Y} = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^N Y_i \quad (2)$$

$$\text{母集団分散： } S^2 = \frac{1}{N-1} \sum_{i=1}^N (Y_i - \bar{Y})^2 \quad (3)$$

ここで、母集団から確率標本抽出 (例：単純無作為抽出) で得られる可能なすべての確率標本の通り数を S 組とする。これらのうちのある 1 組 (s) の観測測定で得られる実現値 y_{si} と、それから得られる平均値 \bar{y}_s を考える。また、この標本の大きさを n_s とする。なお、通常は、あるいは多くの実用場面では“ただ 1 組の標本しか手にできない”が、ここでは、概念的に繰り返しが可能として S 組の確率標本があるとして議論していることに注意する。

$$\text{標本要素の測定で得た } n \text{ 個の実現値： } y_{si} \begin{pmatrix} i=1,2,\dots,n \\ s=1,2,\dots,S \end{pmatrix} \quad (4)$$

$$\text{その平均値 (標本平均の実現値)： } \bar{y}_s = \frac{1}{n_s} \sum_{i=1}^{n_s} y_{si} \quad (s=1,2,\dots,S) \quad (5)$$

以上の記法を用意したとき、平均値の抽出分散 $V(\bar{y})$ は以下のようになる。なお、ここでは平均値という統計量の標本分布の分散を想定している。

$$\text{抽出分散： } V(\bar{y}) = \frac{1}{S-1} \sum_{s=1}^S (\bar{y}_s - \bar{Y})^2 \quad (6)$$

これは若干の計算から、以下のように表すこともできる。

$$V(\bar{y}) = \frac{(1-f)}{n} S^2 = \left(1 - \frac{n}{N}\right) \frac{S^2}{n} = \left(1 - \frac{n}{N}\right) \frac{1}{n} \frac{\sum_{i=1}^N (Y_i - \bar{Y})^2}{N-1} \quad (7)$$

なおここで、 $f = \frac{n}{N}$ のことを**抽出率** (sampling fraction)、 $1 - f = 1 - \frac{n}{N}$ を**有限母集団修正** (fpc: finite population correction) という。

上に記したように、通常は1組の標本しか得られないので、その1組の標本からえた次の $v(\bar{y})$ を、 $V(\bar{y})$ の推定値として用いる。これが(4.2)式に相当する。

$$v(\bar{y}) = \frac{(1-f)}{n} s^2 = \left(1 - \frac{n}{N}\right) \frac{s^2}{n} \quad (8)$$

$$\text{ここで、 } s^2 = \frac{1}{n_s - 1} \sum_{i=1}^{n_s} (y_{si} - \bar{y})^2, \quad \bar{y} = \frac{1}{n_s} \sum_{i=1}^{n_s} y_{si} .$$

この $v(\bar{y})$ の正の平方根を作るとこれが**標準誤差** (standard error) となる。

$$SE(\bar{y}) = \sqrt{v(\bar{y})} = \sqrt{\frac{(1-f)}{n} s^2} = \sqrt{\left(1 - \frac{n}{N}\right) \frac{s^2}{n}} \quad (9)$$

また、次の**変動係数** (coefficient of variation) を、相対的な変動を表すための指標として使うことがある。

$$CV(\bar{y}) = \frac{SE(\bar{y})}{\bar{Y}} = \sqrt{1 - \frac{n}{N}} \frac{s}{\sqrt{n}\bar{Y}} \quad (10)$$

ここでいま、**比率 (割合)** の場合を考えよう。ここで、二項分布的な試行 (ベルヌーイ試行) としたとき、式(1)で母集団要素のある特性が「あり」の場合を「1」とし、そうでない、つまりその特性が「ない」場合を「0」と対応させればよい (Y_i の取り得る値が1または0ということ)。このとき、母集団特性値は以下のようなになる。

$$\text{母集団平均値 (つまり母比率): } p = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^N Y_i \quad (11)$$

$$\text{母集団分散: } S^2 = \frac{1}{N-1} \sum_{i=1}^N (Y_i - p)^2 = \frac{N}{N-1} p(1-p) \quad (12)$$

よって、上の式(7)に対応する抽出分散の式は、以下のようなになる。

$$V(\hat{p}) = \left(\frac{N-n}{N-1} \right) \frac{p(1-p)}{n} \quad (13)$$

したがって,

$$s^2 = \frac{1}{n_s - 1} \sum_{i=1}^{n_s} (y_{si} - \hat{p})^2 = \frac{n}{n-1} \hat{p}(1-\hat{p}) \quad (14)$$

ここで、所与の特性の「あり」「なし」に対応して y_{si} は「1」または「0」となり、また $\hat{p} = \frac{1}{n_s} \sum_{i=1}^{n_s} y_{si}$ (つまり平均相当の比率).

以上から、式 (8), (9) に対応する以下の式を得る.

$$v(\hat{p}) = \frac{(1-f)}{n} s^2 = \left(1 - \frac{n}{N} \right) \frac{\hat{p}(1-\hat{p})}{n-1} \quad (15)$$

$$SE(\hat{p}) = \sqrt{v(\hat{p})} = \sqrt{\left(1 - \frac{n}{N} \right) \frac{\hat{p}(1-\hat{p})}{n-1}} \quad (16)$$